

京大蔵和書たずねある記（下）

教養部 非常勤講師 熱田 公

さて、このようなわけで京大各部局の和書をたずねあるくにつけても、わが京大は、和書の一大コレクションであることに気付く。京大の全学蔵書は約290万冊とのことであるが、うち図書館と文学部で約95万、このうちざっと30%は和書ではなからうか。とすると31万冊、これは延冊数であるから、種類は5分の1とみれば約6万種。あまりに雑な見こみ計算であるが、こんな数字が頭にうかぶ。「図書総目録」の項目は約50万ということであるから、とするとその約1割が、京大にはある、とみていいのではないか。そのうち、重要文化財に指定されているもののほか、学術的にもきわめて価値の高いものが多数含まれていることはいうまでもない。

もっとも和書を蔵しているのは図書館と文学部とは限らない。私が今までお邪魔にあがったのは、人文科研、農学部（農経、造園等）、理学部（数学等）、工学部（建築、金属加工等）、法学部、経済学部、医学部そして薬学部である。数量的にはむしろ文学部と図書館が圧倒的に多いが、各部局とも、さすが京大の歴史を反映して、よくも和書を保管されているものだと感心する。

しかしその保管状況は各部局で区々である。和書が一番優遇されているのは、何といても図書館が抜群である。一、二の特殊文庫の例外を除いて、ほとんどすべて帙におさめられるか、ないし準備中である。和書を洋式の書架にならべ、しかも検索にも便利にするためには帙を作るしか仕方がないが、図書館は実によく整備されている。これにくらべると文学部は格段におちる。帙に入っているのはごく一部（私も国史の助手に在籍中少しは努めてみたが、予算の制約のほかにも然るべき業者も得られなくて、何ほども進行しなかった）、満員の書架にぎゅうぎゅうおしつめられ、数冊一しょでなければひきだせない場合もざらである。それでもまだ文学部の本は、表紙を補ったり、題せんをつけたり、保存と利用のための手は加えられている。それにくらべて理科系の某教室のごとき、立派なスチール戸棚に納まっているのは、カードもなく、綴糸がきれたものもそのまま放置されている、といったケースもある。

このような保管状況の差をみるにつけても、京大蔵和書の保管と利用の面で、抜本的な改善が必要であるように思われる。まず、各部局で保管されていることは、それだけの必要はあるからであろうが、文学部以外はその利用も局限されているはずで、これはどこか一か所に集中する方がよいのではなからうか。綿密なカードを作り、検索の便に供するとはいつても、和書は、流行のドキュメンテーションにはなじまないし、第一文章を読める人もごく限られている。その道の専門家でなければ整理作業は進められないが、これも集中管理をはじめて実現できることであろう。第二には、全学を網羅した目録を作成することである。これも専門家を養成しなければできないことではないが、現状ではあまりに宝のもちぐされであろう。そして第三には、保存のために、もっとも金がかかるべきであろう。清家本の重要文化財も、甚だ貧弱な姿でしかない。指定文化財とは限らず、和書は今やかけがえのない文化財でもあることを、考慮していただきたいものである。

各図書室にさんざん迷惑をおかけした上に改善意見とはおこがましいが、京大が和書の貴重なコレクションであることをみるにつけても、もう少し金をかけて大切に扱ってもらえないものか、と思うのである。